
Lies and truth-1989-

唐沢黄泉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

L i e s a n d t r u t h — 1 9 8 9 —

【Nコード】

N 0 0 4 0 Z

【作者名】

唐沢黄泉

【あらすじ】

1946年に起こった雪虫丸沈没事件。不可解な謎を残す事件を、昭和最後の黒歴史として解き明かそうとする主人公、虹村義雄。当時の関係者に話を聞くなどして徐々に事件の核心に迫るが、彼の周囲に危機が頻発する。果たして彼は無事に真相へたどり着くことが出来るのだろうか。

サスペンス要素が強いかもしれません。

1946年と1989年を交互に行き来して話を進めていきます。

一序章一

カチッ。

「あれ、このテープレコーダーが悪いのかな？」

電源もきちんと入っているところを見ると、
どうやらレコーダーに問題はないらしい。

「ははは、バカめが…20年も経てばテープなんて劣化するわな」

俺の様子を盗み見ていた編集長が、
ガッハツハと豪快に笑い出した。

「第一よお、船舶事故に何の関係があるんだよ、歌謡曲なんぞがよ」
「な、何か関係があるはず…なんです…」

最後は尻切れトンボになったが、まあいい。
どんな取材も最初は暗闇の中を手探りで進むのだ。
謎はこれからゆっくり解き明かしていけばいい。

「しかしよお、今更雪虫丸沈没事故なんか取り上げて何になるんだ
よ」

「今だからいいんでしょう？昭和が終わりかけている今に、昭和の
歴史に残る未解決事件を…」

「だったら、天皇が崩御なさる前にしてくれ。話題性で売るんだか
らな」

ハイハイ、分かってますよとためいきをつく、「ハイは一回!」と怒鳴られた。

まったく、うるさい人だ。

その後も何回か試してみたが、リールがだいぶ古くなっている所為かな？

カセットテープはうんともすんとも言わなかった。

年号は1940年代だ。

タイトルは「支那の夜」とある。

五十がらみになる編集長に聞いてみると、戦前の流行歌らしい。かすれた部分に目をこらすと、「ワタナベハマコ」とも書いてあった。

おそらく歌手の名前だろう。

「渡辺はま子だろう？知ってるよ。想い出のメロディーによく出るよな」

「実在の人物ですか」

「30そこそこのお前が知らないのが驚きだよ。東海林太郎と同じくらい有名だぞ」

「はあ…」

「支那の夜のレコードは、当時飛ぶように売れたらしい。そのカセットは60年代のものか？なら、マニアが音質の劣化を防ぐためにダビングしたんだろう」

「なるほど」

編集長は回転椅子をくると一回転させ、俺に向き直った。

「お前もライターの手ぐれくらいにはなったって事か」

口角の片側だけをグイッと上げた意地の悪い微笑み。

「ええーっ!!」

「まだまだヒョッコって事だよ。肝心なところがちーとも分かつちやいねえ」

編集長は頭をぼりぼり掻きながら、俺の目を見て言った。

「ライターなんてな、警察と同じくらい危険だと思え」

「はい」

「特に雪虫丸沈没事件は、テロや爆破の疑いも持たれたブラックな事件だ。気を抜くなよ」

「はい」

「結局、命に勝る大事なモノなんてないんだぞ」

その言葉が

こんなに重みを持つとは
正直思っていなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0040z/>

Lies and truth-1989-

2011年11月30日14時54分発行